



たてやま

# おらがんまつち

2012.07 No.11

南総祭礼研究会



## 館山市船形地区 堂の下



船形山(堂山)中腹の「崖の観音」

**地域の紹介**

船形地区は館山市の北部に位置し、明治二十二年に船形村と川名村が合併してできた地区です。昔から館山の漁業の中心的な役割を担っており、船形漁港は、東京湾で唯一の第三種漁港(時化の時に避泊可能な漁港)に指定されています。

「船形」の地名の由来は、港の裏に背負った堂山が船の形に見えるところからきています。

### 地域の紹介

- 制作年:明治三十二年
- 人形:仁徳天皇
- 扁額:宮本
- 上幕金:鳳凰
- 大幕:浦島乙姫
- 泥幕:波に千鳥
- 提灯:桜と堂と若
- 半纏:背に堂襟に堂の下
- 彫刻:加藤清正の虎退治、弁慶と牛若丸、曾我兄弟の仇討ち、八岐大蛇など
- 彫刻師:後藤喜三郎橘義信

### 自慢の山車

堂の下区の山車は、南房総では他に類を見ない特色を持っています。それは見事に組まれた「高欄受桁組」と「唐破風」になっている正面の屋根、そして何と言っても最大の特色が、その舵取りの仕組みです。堂の下区の前車輪の側に二人の若い衆が座り込み、左右の車輪それぞれに作った綱を操作して方向転換をさせるといふ、稀にみる独特の仕組みを持っています。

へばりつくように建てられた船形のシンボル「崖の観音」があり、その隣には船形地区の総氏神である諏訪神社が鎮座しています。その諏訪神社のお膝元「宮本」が、今回ご紹介する堂の下区です。



囃子台下で梶綱を操作する若衆



また山車彫刻は、房州後藤流の名工「後藤喜三郎橘義信」の傑作といわれ、正面唐破風懸魚に彫り込まれた加藤清正の虎退治をはじめ、向かって右胴まわりの弁慶と牛若丸の五条大橋の出会い、向かって左胴まわりには曾我兄弟の仇討ち、胴まわり後ろには八岐大蛇など、史話や昔話

を題材にした実に多彩な彫物が所狭しと並んでいます。山車人形は仁徳天皇、提灯は桜と堂と若のデザイン、胴幕には浦島太郎と乙姫が鮮やかに刺繍されています。区民の長年の期待に応えて行われた平成元年の大改修を経た山車は現在、区民の一層の誇りとなり愛されています。



後藤喜三郎橘義信による彫刻の数々